

学力の向上について

1 みえの学力向上県民運動について（別紙 1）

本県では、平成 24 年度から学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学力を育む「みえの学力向上県民運動」を展開しています。子どもたちが学ぶ楽しさ・わかる喜びを実感しながら学び、豊かな未来を創っていく力を身につけていけるよう、「主体的・協働的に学び行動する意欲」の育成、「学びと育ちの環境づくり」、「読書をとoshした学び」の推進を 3 つの柱とし、取組を進めています。

2 令和 7 年度全国学力・学習状況調査について

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図るとともに、児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てるため、平成 19 年度から実施されています。

（1）調査の概要

- ① 実施日 令和 7 年 4 月 17 日（木）
- ② 対象
 - ・小学校第 6 学年および中学校第 3 学年の全児童生徒
 - ・特別支援学校小学部第 6 学年および中学部第 3 学年の該当児童生徒
- ③ 調査の内容
 - ・教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・生活習慣や学習習慣等に関する質問調査（児童生徒に対する調査および学校に対する調査）

（2）調査結果の概要（別紙 2）

①教科に関する調査

教科に関する調査において、全ての教科で全国平均正答率を下回るという厳しい結果でした。特に、中学校数学において、素数の意味や、数の性質について考察する力に、算数では、依然として、図形や割合に課題が見られます。

ア 平均正答率（ ）は全国平均との差

		R4	R5	R6	R7
小学校	国語	64.5% (-1.1)	66.9% (-0.3)	67.1% (-0.6)	66.1% (-0.7)
	算数	62.2% (-1.0)	61.8% (-0.7)	62.3% (-1.1)	57.1% (-0.9)
	理科	62.6% (-0.7)	—	—	56.0% (-1.1)
中学校	国語	68.2% (-0.8)	68.7% (-1.1)	57.0% (-1.1)	53.2% (-1.1)
	数学	51.9% (+0.5)	51.3% (+0.3)	52.7% (+0.2)	47.4% (-0.9)
	理科	47.1% (-1.2)	—	—	49.8 (-5) *

*R7 中学校理科は IRT スコア

* IRT（項目反応理論）

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論

* IRT スコア

IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの

② 児童生徒質問調査

ア 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ（肯定的な回答）

	R4	R5	R6	R7
小学生	77.6% (+0.3)	79.1% (+0.3)	81.3% (-0.6)	78.8% (-1.5)
中学生	83.1% (+3.9)	81.6% (+2.4)	82.4% (+2.1)	80.1% (+2.4)

約8割の児童生徒が、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと考えています。また、主体的・対話的で深い学び*に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。

* 主体的・対話的で深い学び

児童生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、自分で考えながら粘り強く学び続けることです。友だち同士等との対話を通じて考えを広げたり、知識と知識をつなげて、より深く理解したりするような学び方を目指しています。

イ 家庭学習時間

・ 平日の学習時間（1時間以上）

	R4	R5	R6	R7
小学生	56.5% (-2.9)	54.0% (-3.1)	50.6% (-4.0)	50.3% (-3.7)
中学生	68.5% (-1.0)	64.9% (-0.9)	63.2% (-1.1)	60.5% (-1.1)

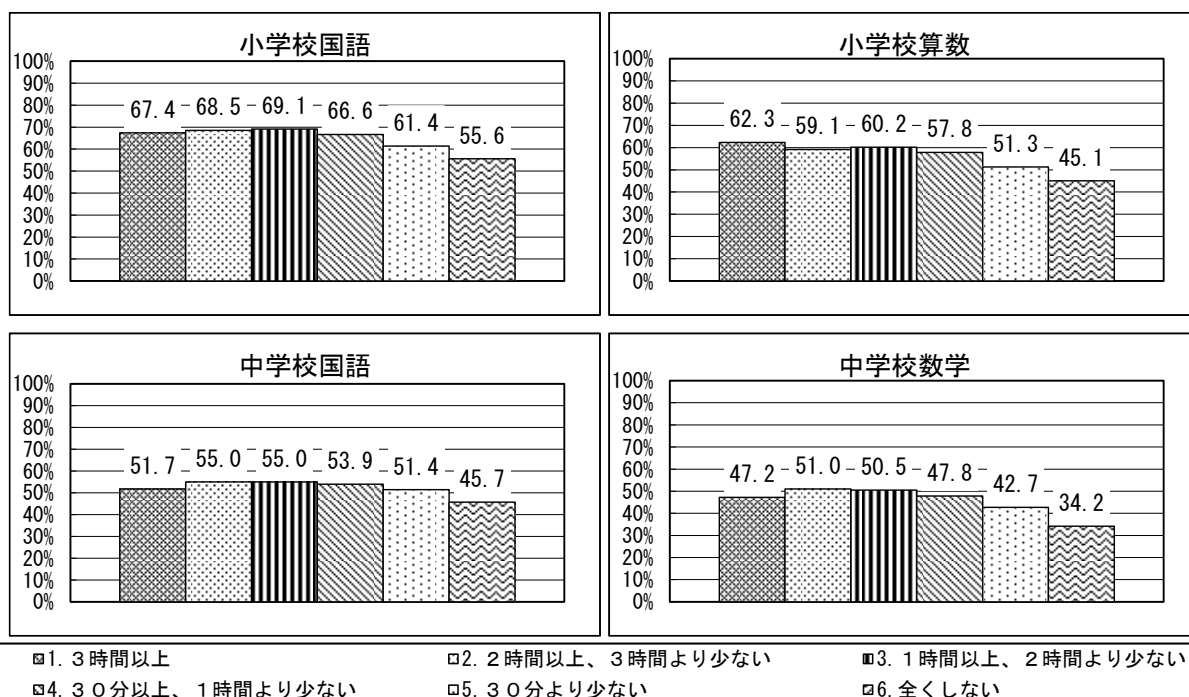
・ 休日の学習時間（1時間以上）

	R4	R5	R6	R7
小学生	48.2% (-7.9)	44.7% (-7.8)	40.4% (-8.2)	38.0% (-9.1)
中学生	64.7% (-6.1)	59.6% (-5.7)	55.6% (-7.4)	49.8% (-8.1)

小中学生とも、「平日の学習時間」「休日の学習時間」において1時間以上と回答する割合が年々低くなり、全国平均より低い状況が続いています。

3 家庭学習の分析について

（1）各教科の平均正答率と平日の学習時間のクロス集計



概ね学習時間が長いほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。子どもが主体的・計画的に学習できるよう、学校・家庭・地域が一体となって、学習習慣の確立に向け、取り組んでいく必要があります。

(2) 平日の学習時間とその他の質問項目のクロス集計（別紙3）

平日の学習時間については、小学校、中学校ともに「主体的・対話的で深い学びの取組」や「学習を振り返り次につなげている」等との間に弱い相関がみられました。また、小学校においては「授業以外の読書時間」との相関もみられました。

4 学力向上に係る取組

(1) 授業改善

①結果の多面的な分析

- ・市町の学力担当者が参加する「学力向上推進会議」では、国の専門家を招聘し、授業改善につながる分析の視点や、質問調査結果の効果的な分析方法等を学ぶとともに、三重県の結果についての原因や成果・課題を分析し、改善に向けた取組を協議しました。
- ・全国学力・学習状況調査結果に影響すると考えられる要因や各教科の領域別正答率の推移、各市町等教育委員会や学校の学力向上の取組との関連性を分析し、好事例を整理し、共有します。

②市町や学校の求めに応じた支援

- ・県教育委員会や県内3か所に設置された教育支援事務所の指導主事が、市町教育委員会と連携し、学習指導要領の趣旨・内容を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について、学校訪問を通じて支援しています。また、全国学力・学習状況調査等の結果をもとに子どもたちのつまづきを把握し、その改善に資する取組についても、各学校の状況に応じた支援を行っています。
- ・学校訪問を継続的に行うことで授業の質の向上が見られるなど、一定の成果が表れています。今後も、市町教育委員会や学校のニーズに応じた支援を継続して実施していきます。

③若手教員への支援

- ・令和6年度より授業力向上アドバイザーや県指導主事が、若手教員に継続的・重点的な指導・助言を行っています。指導法への不安や授業での子どもの反応に戸惑う教員も多く、アドバイザーは若手教員が自信をもてるよう寄り添った指導・助言を行っています。若手教員も、助言を次の授業に活かすなど、意欲的に取り組んでいます。
- ・若手教員が授業参観や、実践・悩みを共有する研修会を開催し、授業力向上を図ります。

※令和7年度モデル校：8市町32校（東員町、鈴鹿市、亀山市、松阪市、明和町、伊勢市、伊賀市、名張市）

④みえスタディ・チェックの実施

- ・みえスタディ・チェックは児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、授業改善、個に応じた指導の充実等を促進するため、平成26年度より実施しています。
- ・授業改善の成果や、児童生徒の学力定着の状況をよりの確に把握できるよう、内容の一層の充実を図ります。

(2) 学習習慣の確立

①学習習慣の確立に向けた取組推進事業

ア 目的

- ・子どもたちが主体的に学びに向かうことができるよう、自ら定める目標の実現に向けて学ぶ内容や学ぶ方法を決定し、学びの状況を振り返りながら改善を行いつつ、学び続けていく力を身に付けることを目的としています。
- ・子どもが主体的に行う家庭学習の取組を通じて、自己コントロールや自己マネジメント力、自己調整力を育むことにより、主体的に学びに向かう力を育みます。

イ 取組状況

- ・モデル校（2校）を指定し、学習習慣の確立に関して高い専門的知見を有する大学教授からの指導・助言を得て、総合的な学習の時間等に学ぶ意義や家庭での学習方法、効果的な時間の使い方を学び、実践・振り返る取組を行っています。
- ・モデル校では、有識者を講師に招き、「家庭学習力」の育成に関する研修会を実施しました。「自分で自分の監督になろう」をテーマに、生活習慣や学習習慣の改善計画を立て、一定期間取り組む方法を学びました。講演では、「一人では続かないから、集団の力で継続していくことが大切です。友達の応援で頑張れます。ほめて励ます『ほめほめメソッド』でじっくり、ゆっくり取り組みましょう。」との話もありました。
- ・モデル校の子どもたちは、「家庭学習力アップ大作戦」として、「自分で自分の監督になろう」とのテーマのもと、アンケートを活用して、自分の生活習慣や学習習慣の長所と短所を把握し、改善点を考え、計画を立て、一定期間実施します。実施後は、続けたいところや直したいところについて振り返ります。取組の中で、子どもたち同士がほめ合ったり、アドバイスし合ったりしています。

ウ 今後の取組

- ・県内の小・中学校教職員を対象に、授業公開と有識者による講演を組み合わせた研修会（10/31、11/10）を開催します。（別紙4）
- ・好事例を成果報告書にまとめ、教職員対象の研修会等で報告するとともにみえの学力向上県民運動ホームページに掲載します。

②保護者との連携（別紙5）

- ・これまで、三重県 PTA 連合会の会議などでの説明に加え、SNS の公式アカウントに家庭学習の習慣化を啓発する動画を掲載するなど、周知・啓発に取り組んできました。こうした取組を通じて、学校・家庭・地域が一体となって家庭学習を支える体制づくりを推進してきました。
- ・今後は、保護者向けに学習習慣の定着を促すチラシを作成し、市町教育委員会を通じて全家庭に配付する予定です。